平成30年2月20日
北海道滝川高等学校

平成29年度末自己評価の分析と具体的な改善に向けて

◇成果の見られた事項（*3.2ポイント以上＝青色*）については、本校の強み、本校のＰＲポイントとしてとらえることができる。

◇課題・問題点については（*2.6ポイント以下＝黄色*）、改善の優先順位を決め（短期的視点・中期的視点・長期的視点から）、具体的な改善策を出していく必要がある。

◇全体のまとめ

（１）集計結果の見方

①「評価平均」の右隣の（　）の中の数字が、昨年度の中間自己評価の数値。

②今年度は、総務部の６、進路指導部の１、SSH・理数科部の７が新規の評価項目です。他の項目では昨年度の数値との比較が可能となっています。

③教職員が入れ替わり、入学してくる生徒の様子も変わっていますので、数値は絶対なものではありませんが、その傾向をしっかりと把握、分析し、具体的な改善につなげることが重要です。

（２）今回の集計結果の傾向

①全体の評価平均は、昨年度から0.1ポイント上昇しています。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
☆ 中間自己評価	２．９	３．０	３．０	３．１	３．１
☆ 年度末自己評価	３．０	２．９	３．０	３．１	**３．２**

ア　平成２８年度の年度末自己評価と比べて

- 青色の強みの項目数が、１１項目から２３項目と倍増しています。
- 黄色の弱みの項目数が、４項目からゼロになっています。
- ３７項目中、前年度比でプラスの項目が２１、マイナスの項目が４です。
- 0.3ポイント以上の大きな変化は、プラス面では１３項目、マイナス面はゼロでした。

→　特に0.5ポイント以上の上昇は、教務部の「授業評価や授業公開などを通じて授業改善を促すことができたか。」、ＳＳＨ理数科部の「国際交流事業の推進を図ることができたか。」が共に、最高の＋0.5ポイントの上昇しています。

（３）学校評価をどう活用するのか？

【学校評価の目的とは】

ア　教育活動や学校運営に対して、目標を設定し、その達成状況や取組の適切さを評価することにより、
学校として組織的・継続的な改善を図るため。

イ　その結果を公表し、説明責任を果たすことにより、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進める。

ウ　学校全体としての取組や動き（他分掌・他学年であっても）を知り、教員一人ひとりの学校経営に対する参画意識を高めるため。

【学校評価の種類】

ア　自己評価‥‥各学校の教職員が行う評価（本校では中間と年度末の2回実施しています）

イ　学校関係者評価‥‥保護者、地域住民等の学校関係者などによって構成された評価委員会等が、学校の教職員が行った自己評価の結果について評価することを基本として行う評価。
※本校では、学校評議員から自己評価についての評価をいただいている。

ウ　第三者評価‥‥学校と直接関係を有しない専門家等による客観的な評価
※本校では、まだ実施していない。

注)「学校関係者評価」と「第三者評価」の２つを「外部評価」とし、その参考として行っている生徒や保護者、地域住民等を対象とするアンケートは、「外部アンケート」として区別する。

【本校における学校評価の年間スケジュール】

４月初旬	教育計画の確定 →　各分掌・学年から出された「評価の観点」を学校評価の項目に （※教育計画と学校評価のリンク）
８月下旬	中間自己評価の実施
９月初旬	中間自己評価の集計と分析
９月中旬	中間自己評価の公表・説明（HPでも）
9月中~10月中	各分掌・学年において、評価の結果・分析から改善策を話し合う
10月下旬	中間評価改善会議にて各分掌・学年から出された改善策を検討→実施へ
11月中旬	総務部による保護者アンケートの実施　→　１月中に結果・分析
冬休み前	年度末自己評価の実施
１月初旬	年度末自己評価の集計と分析
１月中旬	年度末自己評価の公表・説明（HPでも）
２月初旬	学校評議員による学校関係者評価
1月中~2月中	各分掌・学年において、評価の結果・分析から改善策を話し合う ※学校関係者評価・保護者アンケートの結果・分析も取り入れて
２月下旬	年度末評価改善会議にて各分掌・学年から出された改善策を検討 →　来年度の具体的な改善策を新分掌へ引き継ぐ
３月中旬	新分掌・学年で新年度の教育計画の策定

◎　学校力（先生方個々の資質や能力＋組織力）を高めることが、最終的に生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出すことになる。
　課題意識と当事者意識をもつこと、課題の明確化・重点化を図り、一人ひとりが学校運営に参画しているという意識が重要である。

1　教育計画･運営組織

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
☆ 中間自己評価	２．８	２．８	３．０	３．０	２．９
☆ 年度末自己評価	２．９	２．９	２．８	２．９	**３．０**

（１）分析結果
　ア　学校教育目標：
　「 高い志を持ち、自己を創造し、真理を追究する心と未来を拓く力を育む 」
　については、H28年度末から数値の大きな変化はありません。
　→　本校の使命（目的）として、「北空知の中核校（伝統校・進学校）」として「リーダーを輩出している」、「難関大学に合格できる」、「一生の友達ができる」、「いじめがない」、「ＳＳＨが面白い」という滝高のブランドイメージ確立を目指した取組を今後も継続していく必要があります。
　９０年の歴史を迎える伝統校として、良い部分は残しつつも新たな時代への対応を考えた取組が必要です。
　また、進学校として入学してきた生徒の進路希望（第一希望）の実現に向けた、学校全体での取組を進めていく必要があります。
　これらが、滝高のブランドイメージとなり、地域・中学生やその保護者に認知されていくことになります。

イ　「教職員の相互理解のもと、協働する組織体として機能している」

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
☆ 中間自己評価	２．６	２．６	２．７	２．８	２．８
☆ 年度末自己評価	２．６	２．６	２．５	２．７	**２．９**

→　昨年度末の評価から0.2ポイント上昇しています。
　分掌、学年、教科などの枠にとらわれず、日常的にコミュニケーションをとりながら、互いに助け合う職場環境になっていると思います。

ウ　「教職員としての専門性を向上するための研修が充実している」が、0.２ポイント上昇し、3.3ポイントになりました。
→　道研をはじめとした公的機関、高教研や各種教科の研究会なども開催されています。授業の調整等に上手くいかない状況もあるかと思いますが、今後も、積極的な参加をお願いします。

２　総 務 部

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
☆ 中間自己評価	３．０	３．１	３．２	３．２	３．３
☆ 年度末自己評価	３．１	３．２	３．２	３．１	**３．３**

（１）分析結果
ア　すべての項目で評価3.0を超えており、前年比でマイナスになった項目はありません。

イ　次の５つの項目が本校の強みとなっています。
ａ　「学校運営の円滑化に資することができたか」
→　今年度もスムーズに進めていただいていることに感謝いたします。部長を中心として、各分掌、各学年と充分な連携が図られているということだと考えます。今後も、継続してお願いします。

ｂ　「行事の適切な運営・連携を図ることができたか」
→　今年度も引き続き、校務運営会議や職員会議で、３か月分の行事予定を出していただいるため、先を見通した連絡・調整が行えています。
　また、平成３０年度の年間行事計画についても全体を俯瞰した調整をしていただいたことに感謝いたします。

ｃ　「地域や中学校などに対して学校を開く活動を通して、本校に対する、理解を深めることができたか」
→　オープンスクールの申込は、昨年度比１．６倍となり特に地域の方々の参加が多くなっていました。体験入学会へも例年並みの参加者がありました。学区内の中学生の数が減少している状況を考えると、多くの参加があったととらえることができます。

ｄ　「ＰＴＡ活動の活性化を図り、保護者に対して学校活動への理解と協力体制を進めることができたか」
→　今年度は、高Ｐ連の全道大会に係る業務がありましたが、ＰＴＡ役員や総務部の先生方のご協力をいただき、無事終了できたことに感謝いたします。全般的にＰＴＡの協力体制は得られてきていると考えます。学校祭バザーや研修旅行の企画など役員さんが中心となって進められてきている状況もあり、ＰＴＡの主体的な活動にシフトしてきている状況ですので、今後その流れが加速していくとより活発な活動が行われていくものと考えています。

ｅ　「中学校等への情報発信・説明会などを通じて、本校の教育活動への理解の深化を図ることができたか」
→　今年度も学校案内パンフレットを中学生やその保護者の目にとまる、読みたいと思う、読んで滝高を理解できる、滝高に行きたいと思えるパンフレットづくりを進めていただき感謝します。今後も、より魅力的なパンフレットになるよう検討をお願いします。

3　教 務 部

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
☆ 中間自己評価	２．７	２．９	２．９	３．０	３．０
☆ 年度末自己評価	２．８	２．９	２．９	２．９	**３．１**

（１）分析結果

ア　全体的な評価について、昨年度に比べ0.2ポイントの上昇です。

イ　質問項目３が、昨年度までの「シラバスを活用し、授業評価や授業公開などを通じて授業改善を促すことができたか」という評価の観点が「授業評価や授業公開などを通じて授業改善を促すことができたか」とシラバスの活用がとれたためと思われるが、0.5ポイント上昇している。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
☆ 中間自己評価	２．４	２．６	２．８	２．６	３．０
☆ 年度末自己評価	２．５	２．６	２．７	２．６	**３．１**

→　評価の観点からシラバスが削除されていますが、それによりシラバスの必要がなくなったということではないので、誤解のないようお願いします。

各教科において、学習する目的（なぜ勉強するのか）をはじめ、授業をつうじてどのようなことが身につくのか、どのような計画で授業を進めていくのか、どのような評価を行っていくのかといったことを、年度初めの授業開きやガイダンス等で生徒に各教科担任の先生から説明されていると思いますが、それらをまとめたものがシラバスですので、今後も活用をお願いします。

シラバスの記載内容例
- 授業の目的の明確化
- 評価規準の明確化と指導との一体化
- 学習方法のアドバイス
- 進度等の授業管理
- 系統的に（３年間を見通して）教科としてどんな力を身に付けさせたいのかの明確化

4　生徒指導部

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
☆ 中間自己評価	３．１	３．１	３．０	３．１	３．２
☆ 年度末自己評価	３．１	３．１	３．０	３．２	**３．１**

（１）分析結果

ア　各項目において前年度に比べ、評価が４項目でマイナスとなっています。

→　遅刻は、昨年同様に非常に少なくなっています。朝読書の取組の他、学年の先生方が毎朝玄関で登校指導をしていただいていることも遅刻者減少の要因だと思います。生徒の登校時間も昨年度に比べ５分ほど早くなっています。

引き続き、時間や約束を守ることは社会人として当然のことだと思います。時間を守らなければならないことの意味や意義を考えさせる指導をお願いします。

イ　生徒指導全般について

→　生徒に考えさせる指導をしていただいていますが、今後もぜひ生徒に考える機会を与えていただきたいと思います。ルールで禁止されていなければ許されるのではなく、ルールに書かれていなくても、社会通念上許されるのか？学校生活を送る上で、ふさわしいことなのか、我々からの問いかけがあって、生徒にとっての考える機会となると思います。ぜひ、生徒一人ひとりに人間関係を構築する上で必要な、最低限の挨拶や言葉遣い、マナーが身につくような指導を継続してお願いします。

ウ　自転車マナーについて

→　時折、自転車のマナーについて外部から指摘をいただくことがありますが、見えている範囲内では、目に余るような状況は見られません。しかし、周囲から滝高生が見られているのは間違いありませんので、自転車で歩道を走行する際は、歩行者の安全に配慮する指導を継続してお願いします。滝高が輩出するリーダーには、他者を思いやる心が

必要だと考えます。
　自転車による事故でケガを負ったり、身体に障害が残った時には、進路選択の幅を狭めてしまう可能性もありますし、加害者となった場合も同様に、今後の人生に大きな影響を与えことになりますので、事故を起こさない・事故に遭わないための継続した指導をお願いします。
　万が一加害者になってしまった場合のことを想定し、自転車保険に加入していることを、自転車通学を認める条件とすることも検討していく必要があります。

エ　教育相談について
→　数は少ないですが、何かをきっかけに学校を辞めたい、学校に行くことが苦痛に感じてしまう生徒がおります。
　３日連続して休むような状況があれば要注意だと思われます。保護者から電話連絡が入っているから大丈夫と考えてしまうのではなく、できるだけ早い段階で生徒と話す機会を設けていただきたいと思います。電話で話すことは手軽ですが、生徒の表情を読むことができない側面があります。保護者や生徒の了承を得られれば、家庭訪問を行い顔をつきあわせて話す機会を設けるようお願いします。
　さらに、生徒の状況については、学年主任をはじめ関係分掌とも情報共有しながら対応策を検討していく必要があります。担当者がひとりで抱え込んでしまうと、担当者自身も辛くなってしまいますので、是非、情報の共有をお願いします。

5　進路指導部

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
☆ 中間自己評価	２．９	３．１	３．０	３．２	３．２
☆ 年度末自己評価	２．９	３．２	３．２	３．１	**３．４**

（１）分析結果
ア　昨年度に比べ、0.3ポイント上昇しています。今年度は、３年生の出願先一覧を作成していただくなど、情報の共有化が図られているため所属する学年を問わず、生徒に言葉掛けをする材料となっています。これを契機により一層、学校全体で生徒一人ひとりをバックアップしていく体制へ、そして『生徒一人ひとりをしっかりと面倒を見てくれる滝高』というイメージができあがっていくことを願います。

イ　進路指導部から模擬試験結果のまとめが随時出されています。経年での変化も掲載されており、生徒の状況を把握するのに役立っています。ただ、大学入試は全国の高校生がライバルです。そのような意味では、少なくとも道内の進学校といわれる高校と対比させた平均点や各科目の得点分布などが分かる資料があると､我々の教科指導の参考となったり､生徒のやる気を引き出すような材料にもなるのではないでしょうか。

ウ　これまでの公務員を中心とする就職から、今年度はＪＲ北海道をはじめとする民間企業から内定をもらう生徒も出てきています。今後も民間企業への就職を希望する生徒が増えてくることが予想されます。そのためにも就職指導について、学校全体で情報を共有していく必要があると思います。

6　SSH・理数科部

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
☆ 中間自己評価	２．８	３．０	２．９	２．９	３．０
☆ 年度末自己評価	３．０	３．０	２．９	２．８	**３．２**

（１）分析結果

ア　ＳＳＨの指定を受けてから、最も高いポイントとなりました。

イ　「SSH事業を推進するため、教職員の協力体制を作り上げることができたか。」という項目が、昨年度末評価から0.4ポイント増となり、これも指定を受けてから最も高いポイントとなっています。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
☆ 中間自己評価	２．５	２．７	２．６	２．６	２．７
☆ 年度末自己評価	２．６	２．８	２．５	２．５	**２．９**

→　現在、Ⅱ期申請の結果を待っているところです。
SSHについては、これまでも様々なご意見をいただいてきておりますが、中間反省でも記載したように、SSH１期生、２期生の進路結果を見ても、SSHの取組が大学入試等に不利となっている状況は見られません。むしろ、本校理数科の特色はSSHの指定を受けて取り組んでいることにあります。

☆いじめについて

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
☆ 中間自己評価	――	――	３．１	３．２	３．３
☆ 年度末自己評価	――	３．１	３．１	３．３	**３．３**

→　学校が実施すべき施策として

①学校いじめ防止基本方針の策定
→　Ｈ２５年度（H26.3.18）に策定、学校HPに掲載済み

②学校におけるいじめ防止等の対策のための組織づくり
→　「いじめ防止対策委員会」設置済み

③学校におけるいじめ防止等に関する措置
（いじめの防止、いじめの早期発見・早期解消）

引き続き「いじめはどの学校でも起こりうる」という認識のもと、日常的に次のような点について継続した取組をお願いします。

①「いじめは絶対に許されない」という意識の徹底
- 「いじめられる側にも問題がある」といじめを正当化するような理由は認められないことを理解させる
- 物事の解決手段として、いじめは許されないことを理解させる
- 「いじめをしない」「いじめをさせない」「いじめを許さない」集団づくり

②いじめの防止、いじめの早期発見・早期解消

③「居場所づくり」「絆づくり」

「いじめ」ではないかと思われるようなときは、速やかに担任、学年主任はじめ生徒指導部に連絡をお願いします。